

オールニチアスの改善活動(NKK)

ニチアスでは、「現場力のさらなる向上」を通じ持続的競争力のある企業への成長を目指し、全部門および子会社を含めたオールニチアスで「ニチアス改善活動(NKK)」に取り組んでいます。その概要をご紹介します。

NKK(ニチアス改善活動)とは

2015年4月から当社グループ全体で取り組んでいる改善活動です。その特徴は、従来の改善活動が製造部門だけを対象としていたのに対し、NKKでは、製造部門はもとより営業、開発、事務管理部門などすべての部門が参加しています。また国内子会社、海外子会社も参加しています。「まずはやってみよう」を合言葉に、2015年度は326チーム、2,582人が参加、2016年度は544チーム、4,114人が参加しました。そして3年目である2017年度は、「さらにやってみよう」を合言葉に、より活発な活動を期待しています。

NKK(ニチアス改善活動)の目指すところ

自分たちの職場を良くしていくことで、ニチアスという会社の幹を太くたくましくしていくための土壌となるのがNKKへの取り組みです。そのねらいは「現場力のさらなる向上」です。「現場力向上」に向けての活動が、ニチアスグループの文化として根ざし、それにより、より一層の持続的競争力のある会社となることを目指しています。

活動の内容

NKKは、製造部門だけでなくほかの部門も活動に取り組みやすくすることに配慮した、4つのカテゴリーに分けて活動をおこなっています。カテゴリーは右記のとおりです。ビジネス展開、業務改善という2つのカテゴリーを準備することで、営業、開発、事務管理部門が参加しやすいように工夫しています。



活動のねらい

NKKが企業文化になることを目指す

NKKには「しごと改善」「人材育成」といったねらいに加え、多種多様なビジネスでグローバルに展開するニチアスメンバーの心をつなぐ機能もあると思っています。業務テーマに応じて参加カテゴリーを選べるようにしたことで、これまで改善活動に縁がなかった部門の参加も促され、層の厚みが増したと感じています。とりわけ世界各国の優秀メンバーが会して活動を披露する「NKK世界大会」には驚きや感動があります。改善活動は、企業の基礎体力づくりのようなもの。NKKをグループの企業文化として育んでいきたいと思っています。



技術本部 品質保証部 部長 (NKK事務局) 澤田 淳也

NKK世界大会と改善事例

毎年「オールニチアスNKK世界大会」を開催

活動の集大成として、毎年12月に「オールニチアスNKK世界大会」を東京で開催しています。2016年で2回目の開催になります。オールニチアス10カ国544チーム計4,114人が参加した中から、国内大会、中国大会、東南アジア大会、欧米大会といった予選会を勝ち抜いた5カ国13チームが参加しました。



東南アジア大会での発表の様子



オールニチアスNKK世界大会

NKK
改善事例1

国分工業「製品製造リードタイムの短縮」

【活動の目的】

・製品リードタイムの短縮(現状15日→目標7.5日)

【具体的な活動内容】

- ・複数工程で共用していた装置の専用化
- ・最適な製品冷却条件の再検討による冷却時間の短縮
- ・原材料の変更
- ・投入材料の開発・改良による工程待ち時間の短縮 など

【活動の結果】

・目標リードタイム7.5日を達成

活動
チーム
の声

VOICÉ 既成概念を払拭し、問題解決への新たな意識を共有

製品を早く製造するために「細くて速い流れ」をメンバー全員の共通認識として、工程ごとにEGRS原則(削除できないか/結合できないか/変換・再配置できないか/単純化できないか)を議論しました。当初は、材料開発・改良の経験が少ないため、材料の専門用語を理解し、要望を材料メーカーに伝えて改良の方向を探ることに苦労しました。その結果、活動メンバー全員で「こういうモノだと思っていたこと」に疑問点をもち、「これができたら良いなと思うこと」を実現することができたと思います。活動の大きな成果としては、課題解決へのキーワードが「なくせないか・一緒にできないか・順番を変更できないか・簡単にできないか」になり、「こうあるべき」の方向性を全員が共有しやすくなったことだと感じています。



国分工業 ハニクル製造課 岸田 高志

NKK
改善事例2

結城工場「事務管理部門における業務改善」

【活動の目的】

・事務管理部門の女性メンバー7名の業務改善

【具体的な活動内容】

- ・業務の棚卸しによるスキルマップの作成
- ・業務マニュアルの作成
- ・業務トレーニングの実施 など

【活動の結果】

・多能工化による各メンバーの労働時間の平準化に成功
・余裕時間が生まれ、他部署への応援が可能となる

活動
チーム
の声

VOICÉ メンバー各人の改善に対する視野が広がる

業務改善に向け、「自分たちができること」をメンバー全員が真剣に話し合いました。従来は海外向け特殊製品の見積りや手配内容が違う数百種類の資材発注など専門性が高い業務が多く、担当者でないとわからないという状況が多く見られました。そのため担当者の不在時は対応に困ることもありました。今回の活動で作成した業務マニュアルは「これを見れば誰でも業務が遂行できる」を目指しました。理想はプラモデルの説明書でしたが、複雑な業務を理解できるようにするため何度も修正を重ね、作成にはかなりの時間を費やしました。この活動を機にメンバー各人が多様な業務を修得し、スキルの底上げができました。互いの業務をカバーし合う環境が整ったことでチームワークが格段に向上し、部門間の垣根を越えた活動を経験したことで、メンバー各人の改善に対する視野が広がったと思います。



結城工場 製造課 古澤 はるか